

令和5年  
公認会計士論文式試験  
【解答速報】  
監査論  
第1問・第2問

本解答は令和5年8月24日15時に学校法人大原学園が独自に作成したもので、予告なしに内容を変更する場合があります。また、本解答は学校法人大原学園が独自の見解で作成・提供しており、試験機関による本試験結果等について保証するものではありません。

本解答の著作権は学校法人大原学園に帰属します。無断転用・転載を禁じます。

## 第1問 答案用紙<1> (監査論)

### 問題 1

利害の対立：財務諸表の作成者である上場会社とその利用者である投資者の間には、現実的あるいは潜在的に利害の対立が存在する可能性があるため、投資者は、上場会社が作成する財務諸表の質に疑念を持つ可能性がある。そこで、このような利害対立に関係のない第三者である独立の監査人による財務諸表監査が求められるのである。

重要な影響：財務諸表が歪められている場合には、それに基づいて意思決定を行った投資者は誤った経済的意思決定を行い、その結果、損害を被るなどの重大な影響を受けることになり、上場会社は、投資者の数が多数であると想定されるため、その影響は非常に大きい。そこで、投資者が、不測の損害を被ることが無いよう、財務諸表監査が求められるのである。

複雑性：財務諸表は、経済事象や経済活動の写像であるが、上場会社では、経済事象や経済活動が財務諸表に転換される過程が複雑であると考えられ、投資者自らが財務諸表の質を直接確かめることは著しく困難となる。また、経済事象や経済活動が複雑であることから、不正や誤謬の入り込む可能性が増大する。よって、財務諸表監査が求められるのである。

遠隔性：上場会社の投資者は、広範囲に渡って存在すると考えられるが、投資者が物理的に離れていること、法律的・制度的な障害があること、自らの調査に対する経済的・時間的制約があること等によって、財務諸表の質を直接確かめることは著しく困難である。そこで、投資者が財務諸表の信頼性を確かめるために、財務諸表監査が求められるのである。

第1問 答案用紙<2>  
(監査論)

問題 2

問 1

監査の目的が監査基準の冒頭に位置付けられているのは、監査の目的を明確にすることにより、財務諸表利用者に監査の役割を明らかにし、財務諸表監査に対する過剰な期待を軽減するためである。また、監査の目的を明確にすることにより、監査基準の枠組みも自ずと決まることとなり、監査基準の適用範囲やその規定の意味が明確に示されるためである。

問 2

共通点：監査人は、適正性に関する意見及び準拠性に関する意見の両方において、経営者が採用した会計方針が企業会計の基準に準拠して継続的に適用されているかどうか、当該会計方針の選択及び適用方法が会計事象や取引を適切に反映するものであるかどうか、財務諸表の表示方法が表示のルールに準拠しているかどうかについて判断する必要がある。

相違点：適正性に関する意見を表明する場合に必要な、財務諸表が全体として適切に表示されているか否かについての一步離れて行う評価が、準拠性に関する意見では行われない。

問題 3

問 1

監査における不正リスク対応基準は、公認会計士監査のすべてに適用されるものではなく、金融商品取引法に基づいて開示を行っている企業に対する監査に限定して実施される。また、不正による重要な虚偽表示のリスクに対応するために監査人が行うべき監査手続等は、一括して整理した方が理解しやすいと考えられることから、監査基準とは別に規定されている。

問 2

監査における不正リスク対応基準は、法令により準拠が求められている場合には、監査基準とともに一般に公正妥当と認められる監査の基準を構成し、監査基準と一体となって適用されるという関係にある。

第2問 答案用紙<1>  
(監査論)

問題 1

問 1

アサーション：減損損失の評価の妥当性

どのような虚偽表示が生じる可能性があるか：将来キャッシュ・フローの見積額が過度に楽観的で大きすぎることにより、減損損失の過小計上という虚偽表示が生じる可能性がある。

アサーション：製造設備の評価の妥当性

どのような虚偽表示が生じる可能性があるか：減損損失が過小となることにより、製造設備の過大計上という虚偽表示が生じる可能性がある。

問 2

固有リスク要因：経営者の偏向

具体的な事象又は状況：収益性の悪化を一時的なものと捉え、将来キャッシュ・フローの見積りの基礎となる将来の収益性を見通しを楽観的に判断している状況。

固有リスク要因：不確実性

具体的な事象又は状況：減損損失の測定に際し、将来キャッシュ・フローを見積っているが、数年おきに市場シェアが大きく変化し、競争が激化しているため、不確実性を有している。

問 3

特別な検討を必要とするリスクは、重要な虚偽表示リスクの内の質的側面を重視したものである。そのため、特別な検討を必要とするリスクには、虚偽表示の発生可能性と虚偽表示が生じた場合の影響の度合いの組合せに影響を及ぼす程度により、固有リスクの重要度が最も高い領域に存在すると評価された重要な虚偽表示リスクが該当し、固有リスクの重要度によって判断される。よって、固有リスクの重要度によって判断し、内部統制によるリスクの引き下げを反映しないよう、内部統制を考慮しないのである。

第2問 答案用紙<2>  
(監査論)

問題 2

問 1

経営者による将来キャッシュ・フローの見積りについて妥当であるか検討するために、来期以降5年間の事業計画の提示を求めるとともに、当該事業計画について質問する。また、6年目以降について、予想インフレ率が適切であるか検討するとともに、営業利益の算出に用いている成長率について、根拠を求め、適切であるか検討する。さらに、将来キャッシュ・フローを用いて回収可能価額が適切に算出されているかを検討するため、再計算を行う。

問 2

監査法人Xは、当該虚偽表示が不正の兆候かどうか評価し、不正の兆候であると判断する場合は他の監査の局面との関係を考慮し当該虚偽表示が与える影響を評価する。また、減損損失に関する虚偽表示に広範性があるか否かを判断する。そして、未修正の虚偽表示の内容とそれが個別に、又は集計して監査意見に与える影響について、監査役若しくは監査役会、監査等委員会又は監査委員会に報告する。その際に、経営者に重要な虚偽表示の修正を求められることができるように、未修正の重要な虚偽表示であることを明示して報告する。これにより、経営者が要請に応じて当該虚偽表示を修正した場合、監査法人Xは、適切に修正されたかどうか確かめるために監査手続を実施する必要がある。

# 令和5年公認会計士論文式試験 大原の“大当り”ズバリの的中(速報)

## 監査論の的中問題をご紹介します！

### ■令和5年論文式試験 監査論 第1問 問題2 問2

**問題2** 監査基準「第一 監査の目的」について、次の **問1** 及び **問2** に答えなさい。

**問2** 「第一 監査の目的」では、適正性に関する意見の表明に加えて準拠性に関する意見の表明について規定されている。それぞれの意見を表明するに当たって、監査人が行う判断の内容の共通点及び相違点について説明しなさい。

### ■資格の大原 2023年合格目標 監査論 論文基礎演習 第4回 第2問 問題3

**問題3** 適正性に関する意見と準拠性に関する意見を表明するに当たり、監査人が検討する事項の一つとして、財務諸表の表示方法が適切であるかどうかの判断がある。当該判断に関し、監査人が検討する事項を比較して説明しなさい。